

学校法人朴沢学園中期経営計画進捗報告(第5回、2023(令和5)年度)

中期経営計画期間は2019(令和元)年度から5年間であり、最終年度の進捗を下記のとおり報告するものである。

(評価 ○:評価有 △:評価不十分 ×:未実施)

目標	進捗		次年度以降取組
	評価	概要	
＜全体＞			
○学生・生徒確保 (大学:入学定員×1.15) (高校:入学定員)	△	①大学:636名、入学定員×1.06 ②高校:256名<入学定員(330名)	①オープンキャンパスやHP、大学案内のメディアミックス等で質の高い情報発信力による大学PR機会の創出 ②附属高校、協定校、同窓会、卒業生教員との連携強化 ③女子学生各地区に向けたPR強化(女子寮・硬式野球部) ④学部留学生増に向けた検討
＜個別・大学＞			
1. 教育・研究			
(1)カリキュラム改革	○	①体育学科のカリキュラムを改訂し、JSPO-AT資格の制度改編に対応した。 ②スポーツ情報マスメディア学科のカリキュラムを改訂し、高等学校教諭一種普通免許状(情報)の課程認定を文科省から受けた。	①継続案件の検討(カリキュラムのスリム化、高大接続教育の促進等) ②ICTを最大限に活用した教育改革
(2)教員養成の強化	○	○柴田町との「未来先生」を再開することができ、43名の学生が学校現場で経験することができた。継続することで教員採用試験二次試験対策に繋がっていく。今年度は、昨年度を1名上回る15名が教員採用試験に合格することができた。	①教採塾の充実と通信制担当教員との連携強化を図り小学校教員採用試験合格者7名を目指し、全体では、20名の合格者を目標とする。 ②新1年生には、「情報」取得に関する情報を分かりやすく提供する。
(3)英語教育改革	○	①総合英語においてプレイスメントテストの実施及び少人数の習熟度別クラス分けを継続実施した。 ②学習意欲向上を目指し成績上位者を褒賞した。 ③ポストテストを実施し、学修成果の検討を続けた。	①英語教育の質向上への取り組みを継続し、学生の英語力向上を図る。 ②学修成果の更なる検証方策を検討し、英語教育の更なる改善を図る。

<p>(4)UNIVASへの積極的取り組み</p>	<p>○</p> <p>①「学修習慣」の定着と「文章力・英語力」の向上を目的に入学準備課題の教材にUNIVASが発行する「学びのハンドブック」を活用している。</p> <p>②特別指定競技部のUNIVAS「SSC認証」取得へ向け、体制整備のための予備調査を行った。</p> <p>③令和4年度から「部活動の地域移行支援」に関する事業を受託し、地域の支援活動を実施した。</p> <p>④令和4年度から、スポーツ局安心安全プロジェクト救命救急講習(ASRP)を実施した。</p> <p>⑤UNIVASCUPで東北地区1位となった。</p>	<p>①「学びのハンドブック」の改訂に伴い入学準備課題の見直しを図る。</p> <p>②特別指定競技部のUNIVAS「SSC認証」取得に向けた取り組みを実践し、認証申請と取得を目指していく。</p> <p>③拠点型競技別スクール等を継続する。</p> <p>④スポーツ局安心安全プロジェクト救命救急(ASRP)を継続的に実施していく。</p>
<p>(5)高校・大学の7年教育の取り組み</p>	<p>○</p> <p>①仙台大学附属明成高校に対し、「体育原理」の授業を提供し、受講した32名中31名が入学した。</p> <p>②高校での三者面談時、新入生ガイダンスにおいて大学説明会を実施するなどにより、令和5年度内部進学者44名を実現した。</p>	<p>①高大接続教育の促進を継続する。</p> <p>②大学から高校に部活動指導員として5名派遣し、高大接続による部活動を推進する。</p> <p>③進路ガイダンスの充実等、連携強化を通じて内部進学率を向上させる。</p>
<p>2. 東京オリンピック・パラリンピックへの取り組み</p>		
<p>(1)オリンピック・パラリンピック選手輩出</p>	<p>△</p> <p>①現役学生(体育学科1年)がトルコで開催された冬季デフリンピック・アルペンスキー大回転で銀メダル獲得した。</p> <p>②卒業生がベルギーで開催された体操の世界選手権男子団体で金メダルを獲得し、個人種目別の床でも銀メダルを獲得した。来年度7月開催のパリ五輪の出場を目指している。</p> <p>③卒業生がフランスで開催された世界パラ陸上選手権大会の女子砲丸投げで銅メダルを獲得した。来年度のパリパラ五輪の出場を目指している。</p> <p>④女子柔道の留学生がパリオリンピック、グアム代表候補となった。</p>	<p>○今後も卒業生を含めオリパラ・デフで活躍する選手の輩出に向けて全学的に取り組む。</p>

(2)ホストタウン招聘	○	○レガシーの1つとしてベラルーシから派遣された職員を本学職員として採用し、学生の指導に当たっている。	
(3)ポスト東京を睨んだ大学教員の指導者派遣	○	○教員が日本オリンピック委員会の強化スタッフや日本スポーツ振興センターの映像分析サポートなどの活動を行った。	○各協会等と調整し、教員等のオリ・パラ派遣を通じて、大学の地位向上を図る。
3. 地域連携			
(1)宮城県支援事業を通しての地域連携	○	○岩沼市、柴田町、亶理町、山元町、大河原町、富谷市、大和町と中学校の部活動支援、小学生の運動指導のほか、地域防災人材育成等の事業を実施した。	○今後も、積極的な取組みを継続・拡大していく。
(2)プロスポーツとのアカデミックパートナー連携	○	①仙台89ers、ベガルタ仙台、楽天野球団及びマイナビフットボールクラブと継続的に活動を実施した。 ②特に、マイナビフットボールクラブとは、別途協定を締結し、補食提供、マーケティング等の支援活動を実施した。 ③楽天野球団に卒業生が栄養スタッフとして採用された。	○ブランディング事業の成果を踏まえた各種事業について、さらに多くの学生の参画を促しながら継続・拡充していく。
(3)近隣市町村との連携	○	①現場実習を兼ね高齢者の介護(転倒)予防、一般成人向けの健康実践指導を実施した。 ②富谷市、亶理町などと幼児体力測定、金管バンド支援活動、クリケット競技を体育の授業に取り入れるなど、活発な事業を行った。 ③「東北こども博」を継続開催した。	①継続的に取組みを実施する。 ②第1回アイリスオーヤマ杯女子硬式野球交流大会を白石市と共催、柴田町、大河原町、角田市の後援により、4月27、28日に開催する。
(4)民間企業等と連携	○	①仙台経済同友会と部活動に地域移行に関する協定を締結し、会員企業就職後もスポーツ指導を希望する学生にとのマッチング事業を行った。(5年度は1名の採用) ②女子硬式野球部創設に伴い、アイリスオーヤマと活動支援の目的で資金援助を含む連携をし、活動を開始した。	①連携先と協力した取組みを推進するほか、民間企業からのさらなる支援を求めていく。 ②第1回アイリスオーヤマ杯女子硬式野球交流大会の協賛、後援に可能な限り多くの企業の参画を得る。

4. 国際交流			
(1)学生の提携大学等への派遣	○	<p>○コロナ感染状況の沈静化を踏まえて、令和5年度後期にJASSO奨学金プログラムを活用した提携先大学への学生の海外派遣(10プログラム中8プログラム)を継続実施した。そのほか、大学独自の助成金制度を利用して、海外協定校(タイ/ロングビーチ校)に約2週間の留学研修を実施した。</p>	<p>①令和6年度はJASSO奨学金プログラムとして9プログラムが採択されており、全て実施する方向で取り組む。</p> <p>②提携先の大学等からの留学生数の拡大に向け努力する。</p>
(2)新たな提携先拡大	○	<p>①2021年度の協定締結後、ニュージーランドのカンタベリー大学から7名インターンシップ生を1か月間、受け入れた。</p> <p>②タイのシーナカリウィロード大学から1名、インターンシップ生を3か月間、受け入れた。</p> <p>③中国の日本語養成高校及び吉林省農業大学家政学院との提携を検討中。</p>	<p>①海外協定校の学生について、多種多様な受入に努める。</p> <p>②提携先の拡大については、適切な情報の収集に努め、積極的に行っていく。</p> <p>③海外の非提携先からの留学生受入にも努める。</p> <p>④学部留学生の拡大に向けて中国の高校との連携を図る。</p>
5. 学生募集・就職支援			
(1)学生募集の強化	△	<p>①SNSにリスティング広告を実施し、前年度比1.2倍のオープンキャンパス参加者を増加させた。</p> <p>②同窓会理事に同行し、高校進路指導教員に入試説明を行うなど同窓会との連携強化を図った。</p> <p>③高校訪問専担者による大学の情報提供および高校の情報収集を行うことにより、きめ細やかな学生募集活動を行った。</p> <p>④運動部活動を行う生徒を中心に郡山市施設のネーミングライツ・スポンサーとなり、学生募集につながる本学の知名度アップを図った。</p> <p>⑤SNSも活用した大学案内の作成、LINEを活用した入試およびオープンキャンパス情報の発信に努めた。</p>	<p>①HPやSNS広告等あらゆる媒体により情報発信で大学紹介の機会を増加させる。</p> <p>②教員と職員が連携し、全学体制で学生募集に注力する。</p> <p>③宮城県内高校訪問を重点に実施する教員による情報収集結果を活かした取組みを進め志願者数の増加を図る。</p> <p>④北海道地区の本学卒業教員に対して訪問等により情報収集を図り、志願者数の増加に努める。</p> <p>⑤指定校、附属校、連携協定校との深耕を図り、志願者数増加に努める。</p> <p>⑥学部留学生の増加を目指す。</p>

(2)就職支援の強化	△	①学生への就職支援の取組み時期を繰り上げ、きめ細かな指導に努め高い就職率(98.8%)を維持した。 ②仙台経済同友会と連携し、採用後もスポーツ指導者として活動する者1名が会員企業に就職した。	①公務員採用塾を開講し、公安系のみならず一般行政職を目指す学生へのバックアップを図る。 ②入学志願者増加を目途とし、本学HPに具体的な就職先にかかる実績公表を行う。 ③強化策の取組みを継続的に実施する。 ④外部講師派遣等を中心に同窓会との連携を強化する。 ⑤仙台経済同友会との連携を強化する。
6. 研究費の外部資金獲得	△	○鹿島建設(株)ほか数社との共同研究で相応の外部資金を獲得することができた。	○鹿島建設(株)等との共同研究を継続して実施し、外部資金の安定的な獲得を目指す。さらなる共同研究先の発掘を目指す。
7. 施設整備			
(1)陸上競技場2レーン増設工事	○	○竣工済	
(2)野球場の人工芝化	○	○竣工済	
(3)川平地区再整備事業 (仙台地区拠点)	○	○竣工済	○令和6年度より本格稼働する。
<個別・高校>			
(1)学科再編の実行	○	①学科再編4年目 ②国立大学合格2名	①授業改善の推進 ②魅力ある学校づくりの継続実践
(2)大学の連携強化	○	①仙台大学附属高校化4年目 ②川平KMCHの活用 ③仙台大学へ内部進学者44名	①大学の教育資源の活用による教育の深化 ②仙台大学進学意識の涵養
<個別・法人>			
(1)コンプライアンス重視の職場づくり	○	①諸規程整備への継続的取組み ②関連法律等改正への適時対応	○継続した取組み実践
(2)安定した継続可能な財務基盤の構築	△	○臨時支出(高校旧校舎解体費)があるものの中計比乖離	○継続して改善を図っていく。
(3)川平地区再整備事業の実施	○	○最後の取組み高校旧校舎解体工時に着手した。	○スポーツ科学に根差した教育の本格実践中である。
(4)創立140周年事業の実施	○	①記念式典、関連歴史編集 ②裁縫教育資料データベースの新設 ③創立140周年記念募金活動は令和5年度末で終了した。	①予定全て取組み完了した。 ②募金活動は、次年度より新規企画を行い実施予定である。

事業活動収支見込み

(単位:人、百万円)

			令和5年度決算(A)	中期計画(令和5年度 B)	A-B
学生数/生徒数	大学/大学院	学生数(*1)	2,532	2,695	△ 163
		(収容定員)	(2,542)	(2,542)	0
	高校	生徒数(*1)	781	950	△ 169
		(収容定員)	(990)	(990)	0
教育活動収支	教育活動収入		4,881	4,779	102
		学納金	3,673	3,875	△ 202
		經常費等補助金	977	670	307
	教育活動支出		5,050	4,697	353
		人件費	2,732	2,866	△ 134
		教育研究費	1,699	1,403	296
		管理経費(*3)	607	420	187
	教育活動収支差額		△ 169	82	△ 251
教育活動外収支	教育活動外収入		1	1	0
		受取利息・配当金	1	1	0
	教育活動外支出		13	13	0
		借入金等利息	13	13	0
	教育活動外収支差額		△ 12	△ 12	0
經常収支差額			△ 181	70	△ 251
特別収支差額			154	0	154
基本金組入前当年度収支差額			△ 27	70	△ 97

*1: 在籍者数(5/1)を中退率で補正 *2: 令和2年4月 入学定員(330名)変更

*3: 臨時的支出(仙台大学附属明成高等学校旧校舎解体費157百万円)を含む